



あいことば 上宇部 2025

～ 「あい」「ことば」を大切にする学校 ～

10.03 NO-39

「仲間とつながる力を高め、カッコいい5年生」になるために

5年生は、10月20日・21日に、徳地青少年自然の家で宿泊学習を行います。この学習に向けては、なんと進級直後の春から準備や動機づけが始まっていました。来年、最高学年の6年生になることを見据え、今、チーム5年生として「何をめざすべきか」「どうあるべきか」を、子どもたちと先生たちが話し合いをしながら、丁寧に準備を進めてきました。



2学期に入り、いよいよ宿泊学習に向けた学びが本格化しています。まず、5年生全員で取り組んだのは、宿泊学習の目的を明確にし、個々の目標をはっきりさせることです。右の写真は、「どんな宿泊学習にしたいのか」「そのためにどんなことを頑張りたいか」を、大木のイメージで表現したものです。

○大木 = みんなで共有する目標

○実 = 一人ひとりの個別の目標

9月に入ってから、さまざまな活動（下写真）を通して、仲間づくりの基礎をさらに強固なものにしています。



活動前には、準備運動をします。この時、先生方からの指示等はありません。整列から体操まで、子どもたちが声をかけあいながら自主的に進めています。すでに5年生が集団として身に付けている力です。



みんなで手をつないだ状態で、腕に通しているフラフープをできるだけ早く通すアクティビティです。『こうしたらどう』『こうやってみようよ』など、次第にチーム内でコミュニケーションが活発になっていました。



数名で正方形のブルーシートを持ち、シートに置いたぬいぐるみを次のチームに飛ばして渡すアクティビティです。
一昨日実施したもので、体育館中に、『がんばれー』『失敗しても大丈夫だよー』という声が響き渡り、体育館内がとても明るく、あたたかな空間になっていました。見ているだけで笑顔になる……そんな空間でした。

宿泊学習に向けた取組を見ていると、5年生が日々大きく成長していることが感じられます。明確な目標を掲げ、仲間とともに目標達成をめざすことの素晴らしさを実感する毎日です。教科の学習と関連づけたり、さまざまな集団やつながりを築いたりすることで、取組はより充実したものになっています。まさに、学校で学ぶ意味が凝縮された活動となっています。